



せんしょう苑 望洋荘 便り

第154号
平成28年
9月発行

訪問診療、訪問看護で、『親切』のできる範囲

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 滉

訪問診療の患者さんから、夜に電話で呼び出される。電話で名乗られて、「貴方はどのような症状で、何の病気を患っていたのですか。」と私の方から質問する様では親切が届きません。名前を名乗られたら患者さんの大まかな病状がわかるのは七〇から八〇人まででしょう。それ以上になるとカルテを見なくてはわかりません。親切が届く範囲内の患者さんの数はその程度なのでしょうか。実際に、それ以上になると、訪問診療としては廻りきれなくなるのです。現在は五〇から六〇人ですが、カルテを見る前に患者さんの状態やカルテの内容がわかります。しかし、扱っている患者さんの数が多くなったらカルテがなくてはわからなくなります。

「訪問診療」や「訪問看護」も、一般的には、定期的な訪問診療で間に合いますが、転倒骨折、持病の急変、癌疾患や老衰も含めての末期症状で連絡がきて呼ばれたら「迅速」が必要の為、余り距離の遠い所は訪問が出来ませんから、始めから自分の廻れる地域を決めております。先々はもつと「寝たきり在宅患者」が増えると思います。そして、「在宅医療」を引き受ける医療機関も、もう少し余計に必要なになるでしょう。今後、在宅医療に関して、いわき市医師会としても多く

の方々に関心を持って頂くようにしなければならぬでしょうが、「誰かがやるだろう。」との意識であまり責任の無い状態になっています。その雰囲気や風土を日本はいつの間にか「日本の民主主義」にしてしまいました。それは「民主主義」ではなく「皆で渡れば怖くない」の「無責任体質」になってしまったのではないのでしょうか。

「無責任」と言う「汚染」が始まり。最近はそので「良いか悪いか」の判断もなくなりました。「誰かがやるだろう」は誰もやらないのです。

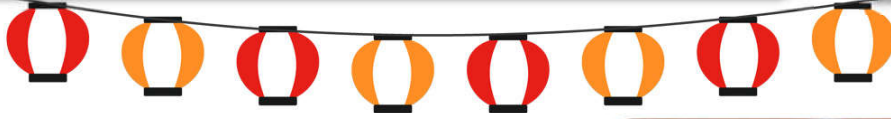
何事もやる意欲のある人にやらせて競争社会にしないと日本は活気が出ません。医療も福祉も活気を生み出すには自由競争しかありません。これからの福祉政策において、活気のある競争社会にすることは大切な国策のテーマであると考えます。

「在宅医療」や「訪問看護」は我々開業医が看護婦と共に出掛けるのです。「出前医者」とでも言うのでしょうか、それを非常に嫌う開業医がおります。しかし、社会全体が「消費者の時代」です。医者の方が頭を切り替えねばなりません。開業医は「出前医者」を誇りにして良いのです。「往診」は明治時代からやってきたのです。医者は、初めから「技術屋」で「労働者」です。「経営者」ではありません。医者がふんぞり返っていても、患者さんに相手にされないだけです。出来る範囲での「親切と優しさ」を持って施設や家庭に訪問診療、訪問看護を提供したいものです。



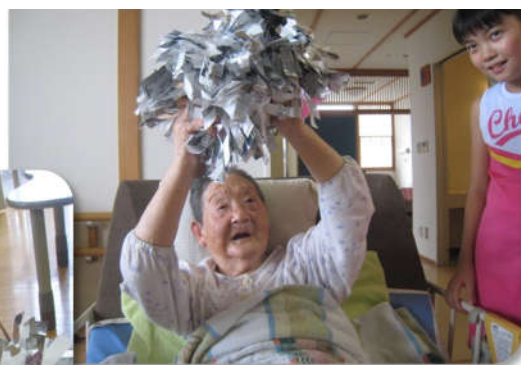
望洋荘 祭り

望洋荘



今年も九月十八日に、望洋荘祭りが催されました。
残念ながら、朝からの雨により室内での開催となりましたが、
かえって日差しを気にすることなく、皆さん楽しそうにお祭り
に参加されていました。





中学生の職場体験

望洋荘には藤間中学校から七人の生徒さんが、せんしょう苑には好間中学校から四人の生徒さんが、授業の一環で、職場体験の生徒さんが来てくれました。入居者様と一緒にできるレクリエーションを考えてきてくれて、皆さん喜んでくださいました。



藤間中学校の皆さん



好間中学校の皆さん



十月お誕生日の皆さん

【せんしょう苑】

永山 しげ 様 九二歳

十月 二七日 みまや東ユニット

鈴木 章子 様 九一歳

十月 二六日 みまや南ユニット

【望洋荘】

坂本 ミイ子 様 九九歳

十月 十一日 四倉ユニット

吉岡 ツル 様 九八歳

十月 十四日 薄磯ユニット

矢内 光子 様 九六歳

十月 十三日 豊間ユニット

鈴木 スイ子 様 九五歳

十月 二六日 永崎ユニット

渡邊 千代子 様 九四歳

十月 十日 豊間ユニット

遠藤 芳子 様 八七歳

十月 二六日 薄磯ユニット

山廻邊 利勝 様 八六歳

十月 十七日 勿来ユニット

佐藤 キク工 様 八四歳

十月 二日 四倉ユニット

玉橋 博 様 七二歳

十月 一日 四倉ユニット

編集後記

『望洋荘・せんしょう苑 便り』

平成二十八年 九月三十日発行

発行所 いわき市平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246)55-7373

地域密着型介護老人福祉施設 せんしょう苑

電話 (0246)38-6331